

令和6年度（2024年度）活動記録（No.24）

# 非核・平和はみんなの願い

【令和6年4月～令和7年3月】



編集 非核・平和をすすめる西東京市民の会

発行 西東京市

# 目 次

非核・平和都市宣言	3
西東京市平和推進に関する条例	4
非核・平和をすすめる西東京市民の会申し合わせ	5
非核・平和をすすめる西東京市民の会の組織	6
2024年度の活動を振り返って	7
西東京市平和の日事業	10
広島平和の旅	11
非核・平和パネル展	13
ピースウォーク	14
非核・平和学習会	16
平和映画会	20
常設展示	22
非核・平和都市宣言（翻訳）	23
資料	25

## 非核・平和都市宣言

私たちは生きている。

おおくの人々が、それぞれの習慣や宗教をもち  
様々な考え方と、異なる環境の下で生活している  
この地球で

私たちは持っている。

この地球上で、健康で幸せな生活をする権利を  
異なる考え方の人々を差別しない義務を

私たちは知っている。

おおくの人々が、今なお戦争で傷つき命を失っていることを  
住みなれた平和な生活の場を追われて飢えていることを

私たちは訴える。

必要なのは笑顔での話し合いであることを  
必要なのは人類愛と思いやりであることを

私たちは宣言する。

あらゆる人を傷つける地雷や武器をなくすことを  
あらゆるものの破滅を招く核兵器をなくすことを  
地球上から戦争をなくすことを

私たち市民のこの声と願いを  
世界に広く訴えるために  
非核・平和都市 西東京市の  
宣言とする。

平成14年1月21日  
西 東 京 市

# 西東京市平和推進に関する条例

平成13年1月21日  
条例第2号

## (目的)

第1条 この条例は、西東京市（以下「市」という。）における平和行政の基本原則並びに平和事業の推進及び平和の日の制定について定め、もって市民の豊かで平和な生活の維持向上に資することを目的とする。

## (基本原則)

第2条 市は、世界の恒久平和を願う市民の精神に基づき、平和施策を市民の協力と参加のもとに推進する。

## (平和事業の推進)

第3条 市は、次に掲げる事業の推進に努めるものとする。

- (1) 平和の意義の普及及び平和意識の高揚
- (2) 平和に関する情報の収集及び提供
- (3) 平和に関する各種行事の開催及び後援
- (4) 平和に関する他の諸都市との交流
- (5) 前各号のほか、平和施策の推進に関し必要な事業

## (平和の日)

第4条 4月12日は、西東京市平和の日とする。

2 市は、西東京市平和の日に、平和の意義を確認し、平和意識の高揚を図るため、記念行事を実施する。

## (委任)

第5条 この条例の施行に関し必要な事項は、市長が別に定める。

## 附 則

この条例は、平成13年1月21日から施行する。

# 非核・平和をすすめる西東京市民の会申し合わせ

## 1 名称

この会の名称を、「非核・平和をすすめる西東京市民の会」と言います。

## 2 趣旨

旧田無市は、1984年8月6日、「非核・平和都市宣言」を行いました。

旧保谷市は、1982年10月1日、「憲法擁護・非核都市の宣言」を行いました。

西東京市は、この二つの宣言の趣旨に則り、2002年1月21日「非核・平和都市宣言」を行いました。

この西東京市の宣言の趣旨を、西東京市とともに市民一人ひとりに広め、平和な世界への実現に向け、思想、信条の違いを越えて、世界中の人々と手をつなぎ合い、市民の創意工夫でいろいろな活動を行います。

## 3 事業、活動の進め方

会の事業、活動は、市民が主体となって、西東京市と提携しながら、市の非核・平和事業予算をもとに進めていきます。

## 4 世話人

会の趣旨に賛同する市民(在勤、在学者を含む)は、随時世話人となることができます。ただし、個人参加とします。

## 5 役員

会の代表として、会長1名をおきます。

会長を補佐するために、副会長をおきます。

事業の推進を図るために、事務局長及び若干名の常任世話人をおきます。

常任世話人の中に、広報、庶務などの担当をおくことができます。

## 6 任期

役員任期は1年とし、再任を妨げないこととします。

## 7 会議

世話人会は、年2回以上開き、役員を選出し、事業計画、予算計画を決定します。常任世話人会は、事業、活動を推進します。

## 8 市民集会

全市民を対象にした集会を、年1回以上開きます。

附則 2001年7月7日決定  
2003年6月7日一部改正

## 非核・平和をすすめる西東京市民の会の組織

会 長	山本 恵司			
事務局長	板橋 史夫			
常任世話人	安齋 慎一郎	鈴木 治夫	野田 信枝	
	福島 義信	藤川 利子	穂坂 晴子	
	宮崎 進一	山口 あずさ		
	横山 年三	渡部 國夫		
世 話 人	久保田 真弘	小林 力	坂口 光治	
	高橋 良彰	武田 五郎	富岡 いづみ	
	中村 勝彦	並木 和子	西田 昭司	
	益留 俊樹			
	(五十音順)			

### 世話人になりませんか

「非核・平和をすすめる西東京市民の会」は、平和を愛する市民の集いです。市民が主体となって発想した企画を、行政と一体になって実施しています。

自分自身の発案したプランが事業活動として実現し、平和に貢献することができます。

西東京市の非核・平和都市宣言の「必要なのは笑顔での話し合い、人類愛と思いやり」をモットーに、更に大きく輪を拡げていきたいと思えます。戦争を知らない世代からの斬新でユニークなアイデアも期待しています。ご希望の方は、協働コミュニティ課までお問い合わせください。

## 2024 年度の活動を振り返って

新たなるスタート

戦後 80 年という節目を迎えるこの年、私たちは過去を振り返り、未来を見据える機会を得ました。この 80 年は平和を築き上げる努力と、困難を乗り越えてきた歴史の連続でした。かつての大戦では、本土決戦という勇ましい掛け声とともに日本全国を焦土とし約 350 万人もの尊い命が失われました。そして他国で斃れた若者たちの遺骨はまだその地に多く残っているとのこと。そのような犠牲を忘れることなく、私たちは平和の尊さを胸に刻み続ける必要があります。にもかかわらず現在の世界を見渡すと、ロシア・ウクライナやガザなどで多くの命が失われ続けている現状があります。国際社会の一員として、私たちはこれらの悲劇に対して無力です。国連をはじめとする国際機関の役割が問われる中、私たち一人ひとりが平和のために何ができるかを考え、行動することが求められています。

日本においても、平和を維持するための課題は山積しています。経済的な不安や社会的な変化が進む中で、私たちは地域社会の絆を強め、未来への希望を育む努力を続けていかなければなりません。ここ西東京市から、平和と希望のメッセージを発信し、次世代により良い未来を引き継ぐために力を合わせていきましょう。

この場に集い、過去を振り返り、未来を語り合うことができる機会に感謝を申し上げます。

**1980 年代、田無市・保谷市の時代に宣言を行い、両市とも市民参加で宣言事業をすすめました。**

西東京市になる前、田無市、保谷市が宣言を行ったのは 1980 年代初頭です。この頃、世界に 7 万発もの核兵器が米ソを中心に各地に配備されていまして、世界はまさに一触即発の、人類滅亡の危機の中に追い込まれていきました。「地球の破滅」「核戦争 3 分前」と新聞などに書かれています。

この頃、ヨーロッパでは数十万人規模での核兵器反対の集会在連日開かれました。そのような中から「デモだけでは、核戦争は無くせない」と自治体の連帯を通して核廃絶の運動も提起されていきました。1980 年 11 月にイギリス、マンチェスター市で「核の配備と購入を行わない」という決議を挙げたのです。そしてこの決議は「我々（マンチェスター市）だけでは、ほとんど意味を持たない。イギリスの全自治体が同様に核の配備と購入を行わないと宣言することによって核廃絶は進む」と他の自治体も非核宣言をすることを呼びかけました。この呼びかけに、世界中の自治体が応え「非核・平和宣言」はまたたくまに世界中に広がりました。

日本でも同様に多くの自治体が「非核・平和都市宣言」を行い、自治体を中心にして核廃絶の動きを加速させていきました。

田無市も保谷市も「宣言」行いました。田無市は 1984 年 8 月 6 日に「非核・平和都市宣言」を、保谷市は 1982 年 10 月 1 日「憲法擁護・非核都市の宣言」を

行いました。

宣言当初から、田無市は「非核・平和をすすめる田無市民の会」（会長・寺村輝夫、事務局長・鈴木治夫）が、保谷市は「護憲平和を守る保谷市民の会」（会長・城加秀治）が、それぞれ市民参加での宣言事業を進めていきました。保谷市は、日本非核自治体宣言協議会が結成された当初は協議会の副会長をしていました。

### **核兵器禁止条約（2020年1月22日発効）**

この非核自治体の運動は世界に広がり、その後平和首長会議も生まれました。世界では 8,378 都市が加盟し、日本では西東京市を含め 1,739 の都市が加盟しています（※2024年4月1日時点）。

そして、世界から核兵器を無くしていこうという初めての国際条約である「核兵器禁止条約」が 2021年1月22日 50か国の批准に達し発効しました。しかし残念ながら日本はオブザーバー参加もしていません。

広島に核爆弾が落とされてから今年で 80 年の歳月が流れます。あと少しで 1 世紀が過ぎていきます。現在もなお世界中には 1 万 2 千発もの核爆弾が配備され、誰かがボタンを押せば地球は滅びる状況が続いています。

### **非核・平和都市宣言は、核や戦争を無くすことが目的**

「西東京市平和の日」（「西東京市平和推進に関する条例」）、非核・平和事業は市民参加で

西東京市の宣言も他の自治体の宣言と同様「武器をなくすこと、核兵器をなくすこと、地球上から戦争をなくすこと」を目的としています。

いろいろな事業は、この宣言の目的を実現させるための一つの方法です。単にいろいろな事業をすることが目的ではありません。

西東京市の非核・平和事業は、「西東京市平和推進に関する条例」に基づいて進められています。この条例は西東京市の誕生の日、2001年1月21日に条例 2 号として定められたものです。

西東京市誕生と共に条例第 2 号として定められたこの条例は、合併以前の 1995 年に田無駅の北口再開発により、北口ロータリーに平和のリングの設置、非核・平和都市宣言文の設置、田無戦災記念碑の設置と併せて「田無市平和推進に関する条例」と定められたものです。この条例には、4月12日を「田無市平和の日」と定め、その年から毎年、その日には爆撃などで亡くなった多くの方々の慰霊の催しを、被災した田無駅北口の地（アスタビル）にて開催してきています。

この条例の特徴の一つは、「市民の協力と参加」と「市民参加」を明示していることです。田無市、保谷市での方法を西東京市となっても継続して市民参加での事業の進め方をしていきます。

### 市民の公募による「宣言文」

西東京市の非核・平和都市宣言の素晴らしい点は、いくつかありますが「宣言文」もその一つです。

田無市と保谷市には、それぞれ非核・平和宣言がされていましたが、合併に伴い宣言は無くなりました。ですからこの会の結成の時にはまだ西東京市としての宣言は行われておりませんでした。西東京市の宣言は市民の手作りで、との願いから、市民参加で作成することとなり、「西東京市平和都市宣言市民委員会」が市民10名で合併した年の8月20日に設置されました。市民委員会で宣言文を市民から公募しますと、わずか一ヶ月の間に58作品が寄せられました。

市民委員会の中で議論して、公募作品の中から2作品を12月7日に市長に報告しました。そして、翌2002年1月21日の市制施行一周年に、市長に報告した作品の中の一つである現在の宣言文が、西東京市の「非核・平和都市宣言」となりました。宣言文の作成過程については、市民委員会からの報告書『「非核・平和都市宣言」に込められた思い』が発行されているので、詳しくはそちらをお読みください。

非核・平和をすすめる西東京市民の会

## 西東京市平和の日事業

日にち	4月10日（水）～14日（日）
場所	田無駅北口アスタビル2階センターコート
内容	記念式典、西東京市戦災パネル・1トン爆弾模型の展示等

西東京市は、平成13年1月21日の誕生と同時に「西東京市平和推進に関する条例」を制定し、4月12日を「西東京市平和の日」と定めています。

西東京市周辺では、昭和19年11月から翌年8月までに、十数回に及ぶ空襲の被害を受けました。それは当時、近隣市である武蔵野市に、アメリカ空軍の攻撃目標となった巨大な軍需工場「中島飛行機武蔵製作所」があり、その工場を狙った流れ弾によるものです。なかでも、昭和20年4月12日、アメリカ空軍のB29爆撃機が投下した多数の1トン爆弾によって、西東京市内でも100名以上の犠牲者が出ました。特に被害が大きかった田無駅北口周辺では、50数名の方々が防空壕などで死亡し、多くの家屋が全壊しました。

そこで、戦争の悲劇を忘れないために、西東京市は毎年4月12日を中心に様々な行事を実施し、平和の意義の確認や、平和意識の高揚を図る取り組みを行っています。



【記念式典】



【会場の様子】

## 広島平和の旅

日にち	8月5日（月）～6日（火）
内容	平和記念式典への参列、事前学習での被爆体験伝承者による講話、平和記念資料館等の見学
参加者	5名

西東京市では、核兵器の恐ろしさや戦争の愚かさ、そして平和の大切さについて学ぶ機会を市民に提供するため、被爆地である広島へ公募市民の方々を派遣する事業を行っています。

今年度は、5名が広島を訪れました。平和記念式典への参列をはじめ、原爆ドームや平和記念資料館の見学、事前学習会での被爆体験伝承者の講話などをおして、原爆や戦争がもたらす悲惨さや平和の大切さ、命の尊さについての理解を深め、この時期にヒロシマを訪れることの意味を改めて考えるなど、多くの体験を持ち帰りました。

### 【見学先等】

- |             |               |
|-------------|---------------|
| ○ 8月5日（月）   | ○ 8月6日（火）     |
| ・ 原爆ドーム     | ・ 平和記念式典参列・献花 |
| ・ 爆心地       | ・ 本川小学校       |
| ・ 原爆の子の像    |               |
| ・ 平和記念資料館   |               |
| ・ 旧日本銀行広島支店 |               |



【原爆ドームと広島平和の旅の参加者の皆様】



【広島平和記念式典・献花】

## 【参加者の感想】

- 保育園や小学校の頃に原爆や戦争の話をたくさん聞いていたのである程度、戦争の知識はあるほうだと思っていました。だけど、今回旅に参加して、私も知らなかったことが学ぶことができました。
  
  - 式典では多くの人が祈っていました。願っていました。平和な世の中を。自分もその中の小さな1つにすぎません。穏やかな日々を送れることを改めて感謝します。
  
  - 原爆ドームへ着いたとたん息苦しさを感じ、いたたまれない気持ちになった。資料館では目をおおいたくなるようなこうけいがつづいた。ものものしい警備と多くの人、かなしみ、くるしみを乗り越えた人々の気持ちを思い、これからも平和がつづくの良いなと思った。
  
  - 被爆した子ども達の手記を読んだり、放射能で頭髪が抜けた子どもの写真を見るのが一番辛かったです。夢あふれる子どもたちの命を奪う原爆は戦争が起きた為に投下されてしまいました。戦争はこんなにも悲しく残酷なものです。こんなに人々が残酷になるものはもう二度とあってはいけないと改めて感じました。
  
  - 8月6日8じ15分に広島にげんぱくがおちて、ことしで79年たちました。へいわきねんしきてんにさんかしました。たくさんのいのちがうばわれてしまったげんぱくは、ほんとうによくないものです。さいごになくなったひばくしゃに花をあげることができてよかったです。
- ※ 「広島平和の旅」事業の詳細については、「令和6年度（2024年度）広島平和の旅 報告集」をご覧ください。

## 非核・平和パネル展

- 日にち 8月7日（水）～9日（金）
- 場 所 田無駅北口アスタビル2階センターコート
- 内 容
- ・ 展示  
西東京市戦災パネル、ヒロシマ・ナガサキ被爆の実相等に関するポスター、1 t 爆弾模型、「平和宣言」広島市長・長崎市長、広島平和の旅報告
  - ・ 上映  
忘れてはいけない記憶～西東京市にあった戦争・アニメ原爆の記～
  - ・ 朗読  
「ひろしまのピカ」岡崎弥保さん  
戦争体験を語る「水陸両用戦車（特二式内火艇部隊）の50日」横山年三さん



【ひろしまのピカ】



【戦争体験を語る「水陸両用戦車（特二式内火艇部隊）の50日」】

西東京市では、これまでの戦争の悲惨な歴史を忘れず、平和を未来へ継承していくために、毎年夏に「非核・平和パネル展」を開催しています。

「ひろしまのピカ」の絵本の朗読や、ご自身の戦争体験を語るイベントを実施する等、戦争の痛ましさや平和の大切さを感じることができました。

また、会場では折り紙コーナーが設けられ、多くの来場された方に折り紙を折っていただき、皆様に参加していただけた非核・平和パネル展となりました。

## ピースウォーク

日にち 10月27日(日)

参加人数 市民21人

行程 ①原爆の図丸木美術館(埼玉県東松山市下唐子1401)  
②吉見百穴(埼玉県比企郡吉見町大字北吉見324)

ピースウォークは、戦争に関連した施設を見学することで、平和の大切さを考える機会としていただくために、毎年秋頃に開催しています。

### ①原爆の図丸木美術館

初めに訪れた原爆の図丸木美術館は、原爆投下時の惨状が大きな屏風いっぱいに、迫力のある筆遣いで描かれている連作「原爆の図」を常設展示する目的で建てられた美術館です。戦争の悲惨さが描かれた絵画は、身が仰け反りそうになるほどの迫力でした。



原爆の図丸木美術館は、1967年(昭和42年)に水墨画の丸木位里と油彩画家の丸木俊によって建てられました。「原爆の図」のほかに、「南京大虐殺の図」、「アウシュビッツの図」、「水俣の図」など、20世紀の戦争や公害を記録した作品も展示されています。

館内では、美術館が建てられた経緯や作品の解説を館員の方から聞いた後、各自で作品を鑑賞しました。



## ②吉見百穴

吉見百穴は、古墳時代末期（6世紀末～7世紀）に造られた横穴墓ですが、この地は1945年（昭和20年）に、大規模な軍需工場が建設された場所でもあります。太平洋戦争末期に、吉見百穴とその周辺に軍需工場を建設するまで追い込まれた当時の日本の窮状を、改めて考えさせられる機会になりました。



吉見百穴は、1923年（大正12年）に日本の代表的な横穴群として、国の史跡に認定されています。戦時中は、西東京市にも工場のあった中島飛行機の軍需工場の建設が行われ、十数基の横穴が壊されました。

しかし、戦後に地元住民の働きかけがあり、積極的な保存管理が行われ、今では吉見百穴は多くの人々に親しまれる史跡となっています。



### 【参加者の感想】

- 東京からこんなに近くに原爆の図、吉見百穴があるなんてまるで知りませんでした。少しでも私の口を通して伝えていきたい。
- 原爆の図を観ていると、悲しみ、怒り、切なさ、色々な感情が高まって涙がこみ上げてきて困りました。若い人たちにも観てほしいと思いました。
- 吉見百穴の軍需工場跡の見学や原爆の図丸木美術館の悲惨な絵を見て、平和の大切さを再確認しました。

## 非核・平和学習会

日時 2月22日（土）  
場所 文華女子高等学校講堂  
内容 講演会「ノーモア広島・長崎～核兵器のない世界をどう実現するか～」  
講師 田中 熙巳（たなか てるみ） 氏

「非核・平和学習会」では毎年、非核・平和に関して講師を招き、講演会を実施しています。

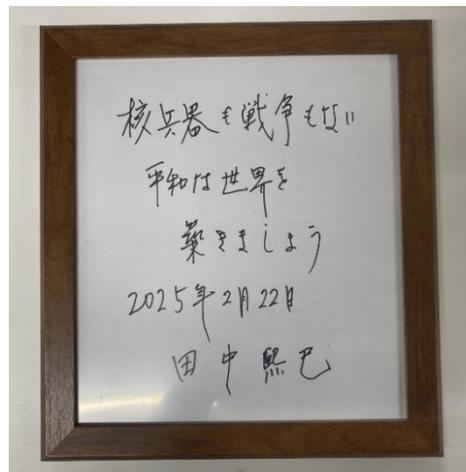
今年度は、文華女子高等学校講堂にて、2024年のノーベル平和賞を受賞された日本原水爆被害者協議会（日本被団協）代表委員の田中熙巳さんをお招きし、「ノーモア広島・長崎～核兵器のない世界をどう実現するか～」をテーマにご講演いただきました。

当日は約750人の方々にお集まりいただき、会場の多くの方からご意見やご感想をいただきました。



## 【田中熙巳プロフィール】

- ・1932年中国東北部（旧満州）生まれ。
- ・1938年父の死亡により親戚のいる長崎に移住
- ・1945年8月9日、中学1年在学時、爆心地から3.2キロ地点で被爆。親族5人を失う。
- ・1972年から被爆者運動に関わり、日本被団協の役員を歴任
- ・2000年6月より日本被団協事務局長を務め、2017年6月より日本被団協代表委員に就任。
- ・東京理科大学物理学卒業、東北大学工学部助教授。新座市十文字学園女子短大教授。



## 講演要旨

今年の学習会は、ノーベル平和賞を受賞し、核廃絶を強く訴え続けてきた日本原水爆被害者団体協議会（被団協）代表委員の田中熙巳さんのお話を文華女子高校で市民のみなさまと聞く機会となりました。

非核・平和をすすめる西東京市民の会の会長挨拶、市長の挨拶に続き、講演開始となり、まずこれまでご苦勞を続けてきた田中さんを始めとする被団協の方へのお祝いとお礼の拍手から始まりました。

田中さんは長年取り組んできた被団協の歴史や今の日本での核兵器禁止をめぐる現状を、マイクを持ち終始立ったままで、時にはユーモアも交えながら丁寧にご話されました。そして予定時間は少し過ぎましたが、「もう少しいいです



か」と聞かれ、ご自身の長崎での被爆体験を話されました。死体が重なる中で歩かざるを得ず人間の感情を失ってしまった事、黒焦げになった親族を見た辛さなどを当事者としてリアルにそして語り掛けるように話されました。差別や語れない苦しさの中で証言を続けてきた被爆者の方たちのご苦勞や核戦争の危険性を

感じる今だからという受賞理由からも私たちが何をすべきかを示唆された思いでした。会場の熱気もあり、お話を続けられたのではとも思います。また質疑応答の時間が多くは取れないため、会場となった文華女子高校の生徒の疑問を予め聞いておきました。

「身近なところで、私たち高校生は何をすればいいですか」「受賞の時、一番印象に残ったことは何ですか」などたくさん高校生らしい質問が並びました。

田中さんの答えは「たくさん知って学んで下さい。でも、その後どうするかは、あなたたちが決めることです。こうしたいという事があれば一緒に考えますよ」また、マスコミなどの質問でも「なぜ日本政府が被爆者に何の補償もしなかったことを2度話されたのですか」が多かったようですが、「核抑止でなくてなぜ核廃絶なのですか?」「核廃絶運動を進めていて広まらず、いやになったことはありませんか?」などの質問には「あきらめないで努力をし続けることです」という田中さんの答えは、その後の数多くのアンケートを書itekてくださった多くの方から感動したという感想にもあるように、私たちに勇気を与えてくださいました。

「年齢からそろそろ市民活動から退散と思っておりましたが、田中さんのお話を聴いて、これからも全力を挙げて平和のための活動をやっていきたいと思います」



「10代ですが、伝承の必要性和緊急性を感じました。私たちには「語り継ぐ使命」があると思いました。将来に向けて忘れずないようにしていきます」など、嬉しい声が多数ありました。

最後に、高校生からのお礼としての花束贈呈と講演の感想が述べられました。

「今まで被爆のことなどを聞いたことがなく、大変勉強になりました。でも大事なことは、質問した私たちが何をすべきかをこれからみんなで考えていくという事が分かりました。」

若い世代への継承をと田中さんの思いにも通じていたかと思えます。

また、会場の外のギャラリーには広島の高中生が描いた絵が展示され、多くの方が熱心に見ていました。非核・平和をすすめる西東京市民の会の「原爆の記」を記載したパネルも展示する機会となりました。

当日、場所を提供して下さった文華女子高校の先生方、生徒さんの協力、会場準備、受付、誘導等に参加して下さった協力者のみなさん、参加して下さった多くの市民の方々の支えにより実現した素晴らしい会になったという思いを強くしました。

これを機に私たちも「核兵器は絶対いけない。戦争に繋げない」行動を市民の方とともに地域で続けていきましょう。4月29日に93歳になる田中さんがオスロでのスピーチで最後に訴えた「共にがんばりましょう！」を胸に。

《文 非核・平和をすすめる西東京市民の会 穂坂晴子》



## 平和映画会

日にち	3月20日（木）午後0時30分～午後4時30分
場所	タクトホームこもれびGRAFAREホール
内容	忘れてはいけない記憶～西東京市にもあった戦争・アニメ原爆の記～ 「令和6年度 広島平和の旅」参加者報告会 追悼の歌唱「長崎の鐘」／大須賀ひできさん 映画上映「この子を残して」

毎年、戦争の悲惨さや平和の尊さを伝えるため、平和映画会を開催しています。

木下恵介監督作品「この子を残して」の上映に先立ち、「忘れてはいけない記憶～西東京市にもあった戦争・アニメ原爆の記～」を上映しました。

また、「令和6年度 広島平和の旅」参加者報告会では、旅に参加したメンバーが感じた気持ちを来場者へ伝え、多くの方々に平和について考えていただく機会となりました。

### 「忘れてはいけない記憶～西東京市にもあった戦争・アニメ原爆の記」

戦時中にあった市内の出来事や今も残る市内の戦跡、体験談などをまとめた映像作品です。令和5年4月には、合併前の初代田無市長である指田吾一が自身の被爆体験を綴った書籍『原爆の記』を一部アニメーション化し加えるなどのリニューアルを行いました。今回の映画会ではアニメーションのみ上映しました。



### 「令和6年度 広島平和の旅」報告会

今年もたくさんの応募をいただいた“広島平和の旅”。その中から選ばれた参加者は、被爆地広島で経験したこと、感じたこと、平和のためにできることなどを自らの言葉で来場者の方に伝えました。参加者は舞台の上で緊張しながら報告を行いました。



## 追悼の歌唱「長崎の鐘」

ゲストに元デュークエイセスの大須賀ひできさんをお招きして、名曲「長崎の鐘」バイオリン演奏と共に歌唱しました。長崎を想い、歌唱に耳を傾けました。



## 映画「この子を残して」

監督 木下恵介

出演 加藤剛、十朱幸代、淡島千景 ほか

### (映画紹介)

1945年8月9日、長崎に原爆が投下され、妻を亡くした放射線医学博士の永井隆は、自らも被爆しつつ、ふたりの子供を育てながら、やがて戦争と原爆の記録を記していくが…。ラストには原爆投下の地獄絵図の映像を見せ、原爆詩に曲をつけ流しながら、壮大なオペラの如く、見るものに多大なショックを与える大胆な作品。見逃せない日本映画史に残る名作です。



## 常設展示

西東京市で作成した「西東京市戦災パネル」や戦時中に市内に投下された1トン爆弾模型等を西東京市の郷土資料室において不定期で展示しているほか、戦争遺品等を田無庁舎2階ロビーで展示しています。

### ①「西東京市戦災パネル」、1トン爆弾模型等の展示 ②戦争遺品等の展示

場 所 ① 郷土資料室

② 西東京市役所（田無庁舎）2階 展示スペース

日 時 ① 不定期 午前10時～午後5時

② 常時 午前8時30分～午後5時

内 容 ① 西東京市戦災パネル、1トン爆弾模型等

② 戦争遺品等



【郷土資料室での展示の様子】



【西東京市役所（田無庁舎）での展示の様子】

## 非核・平和都市宣言（英語翻訳）

西東京市の「非核・平和都市宣言」をもとに、非核・平和をすすめる西東京市民の会が独自で翻訳しました。

英語翻訳：タラント・ジョン（西東京市在住）

### *Nonnuclear and Peace City Declaration*

*LIVING on this Earth, where many people exist in differing environments, with diverse customs and religions and varied ways of thinking;*

*HAVING both the right to enjoy a healthy and happy life on this Earth and the duty not to discriminate against people with different attitudes;*

*AWARE that even today people are being scarred and are losing their lives in wars, and that people are being uprooted from familiar habitats where they have led peaceful lives and are starving; and*

*URGING the need for mutual and amicable discussions, and the need for a love of humanity and compassion;*

*WE DECLARE our wish to eliminate landmines and weapons, which injure all kinds of people; to eliminate nuclear weapons, which wreak devastation on all kinds of things; and to eliminate war from the face of this Earth.*

*To convey our message and prayer broadly to the world, we hereby declare Nishitokyo to be a nonnuclear and peace city.*

*January 21, 2002*

*Nishitokyo City*

## 非核・平和都市宣言（スペイン語翻訳）

西東京市の「非核・平和都市宣言」をもとに、非核・平和をすすめる西東京市民の会が独自で翻訳しました。

スペイン語翻訳：在間直樹（西東京市在住）

### *Declaración de una Ciudad Libre de Armas Nucleares y Pacífica*

*Estamos vivos*

*Muchas personas tienen sus propias costumbres y religiones,  
diferentes formas de pensar y vivir bajo diferentes ambientes, en esta tierra.*

*Tenemos*

*El derecho a vivir una vida sana y feliz en este planeta  
Obligación de no discriminar a las personas que piensan diferente*

*Sabemos*

*Muchas personas todavía están heridas y perdieron la vida en la guerra.  
Ser forzado a abandonar el lugar pacífico donde solía vivir y morir de hambre.*

*Nosotros demandamos*

*Lo que necesitamos es una conversación con una sonrisa  
Lo que necesitamos es humanidad y compasión*

*Declaramos*

*No a las minas terrestres ni a las armas que dañan a todos  
No a las armas nucleares que condenan a todos  
No a la guerra en la tierra*

*Para atraer ampliamente estas voces y deseos de nuestros ciudadanos al mundo, haremos una declaración de la ciudad de Nishi-Tokyo como una ciudad libre de armas nucleares y pacífica.*

*El 21 de enero de 2002,  
la ciudad de Nishi-Tokyo*

## 平和映画会 上映作品一覧

年 度	作品名	監督名
平成 13 年	対馬丸ーさようなら沖縄ー	小林 治
平成 14 年	ホテル	降旗 康男
平成 15 年	月光の夏	神山 征二郎
平成 16 年	戦場のピアニスト	ロマン・ポランスキー
平成 17 年	コルチャック先生	アンジェイ・ワイダ
平成 18 年	あした天気にな〜れ！〜半分のさつまいも〜	中田 新一
平成 19 年	NAGASAKI1945 アンゼラスの鐘	有原 誠治
平成 20 年	夕凧の街 桜の国	佐々部 清
平成 21 年	火垂るの墓	日向寺 太郎
平成 22 年	母べえ	山田 洋次
平成 23 年	TOMORROW 明日	黒木 和雄
平成 24 年	独裁者 The Great Dictator	チャールズ・チャップリン
平成 25 年	黒い雨	今村 昌平
平成 26 年	一枚のハガキ	新藤 兼人
平成 27 年	この子を残して	木下 恵介
平成 28 年	母と暮らせば	山田 洋次
平成 29 年	この世界の片隅に	片渕 須直
平成 30 年	この空の花ー長岡花火物語	大林 宣彦
令和元年	男たちの大和/YAMATO	佐藤 純彌
令和 5 年	この世界の片隅に	片渕 須直
令和 6 年	この子を残して	木下 恵介

## これまでに発行された戦争体験記一覧（1）

発行年	書名	発行者等
昭和44年	原爆の記	指田 吾一
昭和47年	保谷の被爆記	郷土史「保谷」発行会
昭和52年	戦争 生き抜いた私たち —寿講座生の手記—	田無市立中央公民館
昭和54年	歴史はとまってしまった —原爆投下の地、広島・長崎からの告発—	自治労田無市職員組合
昭和54年	中島飛行機製作所と田無 —中島航空金属株式会社と田無—	田無市立中央図書館
昭和54年	町を護る—空襲下の田無—	田無市立中央図書館
昭和55年	戦争を伝える 第1集～第18集	田無市立中央公民館 田無市立中央図書館
昭和55年	中島飛行機と田無—戦争を伝える・座談会の記録—	田無市立中央図書館
昭和57年	田無の戦災誌	田無市立中央図書館
昭和57年	五色の日記	小峰順誉（田無総持寺）
昭和57年	仲間につたえる戦争の体験記 —二度と戦争を許さないために—	田無市職員組合
昭和60年	戦時下の絵日記 —ある美術教師の青春—	佐藤多持
昭和63年	被爆者のお話と映画の集い	核戦争の恐ろしさを子どもらに伝える会
平成2年	私達の街にも、戦争があった	田無第一中学校地歴部
平成2年	なつくさ	保谷市戦争体験をつづる会
平成4年	21世紀への伝言 —私の戦争体験記—	保谷市

※ ここに掲載されている本・冊子は、市内図書館等で閲覧することができます。

## これまでに発行された戦争体験記一覧（2）

発行年	書名	発行者等
平成5年	21世紀への伝言—君のまちにも戦争があった—	保谷市
平成6年	田無 非核・平和運動資料集—田無 非核・平和都市宣言十周年記念— 上・下巻	非核・平和をすすめる田無市民の会、田無市
平成6年	戦争体験記	ほうや公民館だより
平成6年	散華乙女の碑	武蔵野女子学院
平成6年	八つ手の盆—田無の戦争体験を語る—	平和観音保存会
平成7年	21世紀への伝言	平和を見つめる田無のつどい実行委員会
平成15年	「平和を考える講座～その時、西東京市では・中島飛行機とのかかわりから考える～」記録集	西東京市芝久保公民館
平成15年	だれが戦争をはじめたの？—小学生からの質問 平和が一番—	村瀬敬子
平成21年	五歳の戦争	横山さよ子
平成21年	西東京市 市民の戦争体験記(一)	非核・平和をすすめる西東京市民の会、西東京市
平成22年	戦中日誌類からみた戦時下の武蔵野女子学院	武蔵野女子学院
平成22年	西東京市 市民の戦争体験記(二)	非核・平和をすすめる西東京市民の会、西東京市
平成23年	西東京市 市民の戦争体験記(三)	非核・平和をすすめる西東京市民の会、西東京市

※ ここに掲載されている本・冊子は、市内図書館等で閲覧することができます。

## 非核・平和はみんなの願い

令和7年3月

編 集 非核・平和をすすめる西東京市民の会

発 行 西東京市 生活文化スポーツ部 協働コミュニティ課  
〒188-8666 西東京市南町五丁目6番13号 田無第二庁舎  
電 話：042-420-2821（直通）  
F A X：042-420-2893（共用）  
E-mail：kyoudou@city.nishitokyo.lg.jp